



院長 コラム



院長 錫村 明生

アルツハイマー病の発見

アルツハイマー博士が最初の症例を報告したのは1902年のことでした。患者は51歳女性、記憶障害と見当識障害で発症し、言語障害も加わり、4年半で死亡しています。病理解剖が行われ、神経細胞の変性脱落、老人斑、神経原線維変化が三大特徴でした。驚くことに、これは現在の教科書の病理所見と全く同じです。今までに明らかになったのは、老人斑はアミロイドβの沈着であり、リン酸化したタウが繊維状に並んだものが神経原繊維変化であるという点です。120年以上前に単眼の粗末な顕微鏡で、まさにアルツハイマー病の病理所見を的確にとらえています。

現在では認知症の約6割はアルツハイマー型認知症ですが、当時のドイツでは認知症の大半は進行麻痺と呼ばれる原因不明の疾患でした。これが梅毒によるものだと初めて証明したのは野口英世博士です。彼は1900年に渡米し、ペンシルバニア大学で研究を始めました。来る日も来る日も、顕微鏡にかじりつき、ついには進行麻痺の患者の脳内に梅毒の病原菌スピロヘータを発見しました。狂気乱舞し、夜の街に繰り出したとの逸話が残されています。

この研究はその年のノーベル賞候補にあがりました。

新任医師の紹介

物忘れ外来



氏名：道川 誠

ご挨拶：この7月からもの忘れ外来を担当しています。

私は、名古屋市立大学在職中に名古屋市の認知症条例の制定に参画し、また名古屋市の「もの忘れ検診」の制度設計もかかわりました。

現在、これらの制度の活用が広がっており嬉しく思います。

今後も当院での認知症診療に尽力してまいります。

総合診療科



氏名：近藤 猛

ご挨拶：総合診療医として、初期対応から専門医療への橋渡しや患者さん一人一人の声に耳を傾けた最適な医療を提案していきたいと思っております。どうかよろしくお願ひします。

老年内科



氏名：田島 富彦

ご挨拶：4月より金曜午前の外来を担当しております。

もの忘れや体力の低下、薬が多くて困っている等、高齢の方に多く見られる困りごとはぜひご相談ください。

外来診療のご案内

内科

発熱、風邪症状、下痢、吐き気
生活習慣病、健診等で内科系の異常
を指摘された

神経内科

めまい、しびれ、ろれつが回らない
力が入らない、頭痛

腎臓内科

むくみ、疲れやすい、尿糖
タンパク尿、血尿、腎機能の異常

循環器内科

高血圧、胸の痛み・動悸、息切れ
不整脈・背中の痛み、脚のむくみ

整形外科

首・肩・腰・関節の痛み、打撲
ねんざ、手足のしびれ、骨粗しょう症

眼科

見えにくさ、充血、かゆみ
ドライアイ、涙目、目やに
視力の異常（メガネ・コンタクト処方箋）

物忘れ外来

人や物の名前が思い出せない
約束・予定を忘れてしまう
怒りっぽくなった、被害妄想

睡眠時無呼吸外来

昼間に眠い、大きないびき
夜中に何度も起きる
寝ているときに呼吸が止まる

老年内科

転びやすい、物忘れが増えた
薬が多くて困っている
体力の低下、高齢に伴う諸症状


総合診療科

おなかが痛い、風邪症状、湿疹
複数の診療科にまたがる症状

どの診療科を受診したらよいか迷われる場合は
予約センターの担当者に症状をお伝えください

 紹介状が無くても受診できます

紹介状なしで受診しても、通常の医療費にプラスして選定療養費をご請求しておりません

 受診当日に検査結果をお知らせします

血液検査は院内にて分析しており、当日実施した検査の結果を可能な限りその日のうちに説明します
※一部の専門的な検査を除く

 外来診察時に入院が必要と判断された場合、当院での入院も可能です

入院病床が120床あり、内科系全般・整形外科系疾患、眼科（白内障手術）の入院加療が可能です
※病状により専門の医療機関をご紹介する場合があります